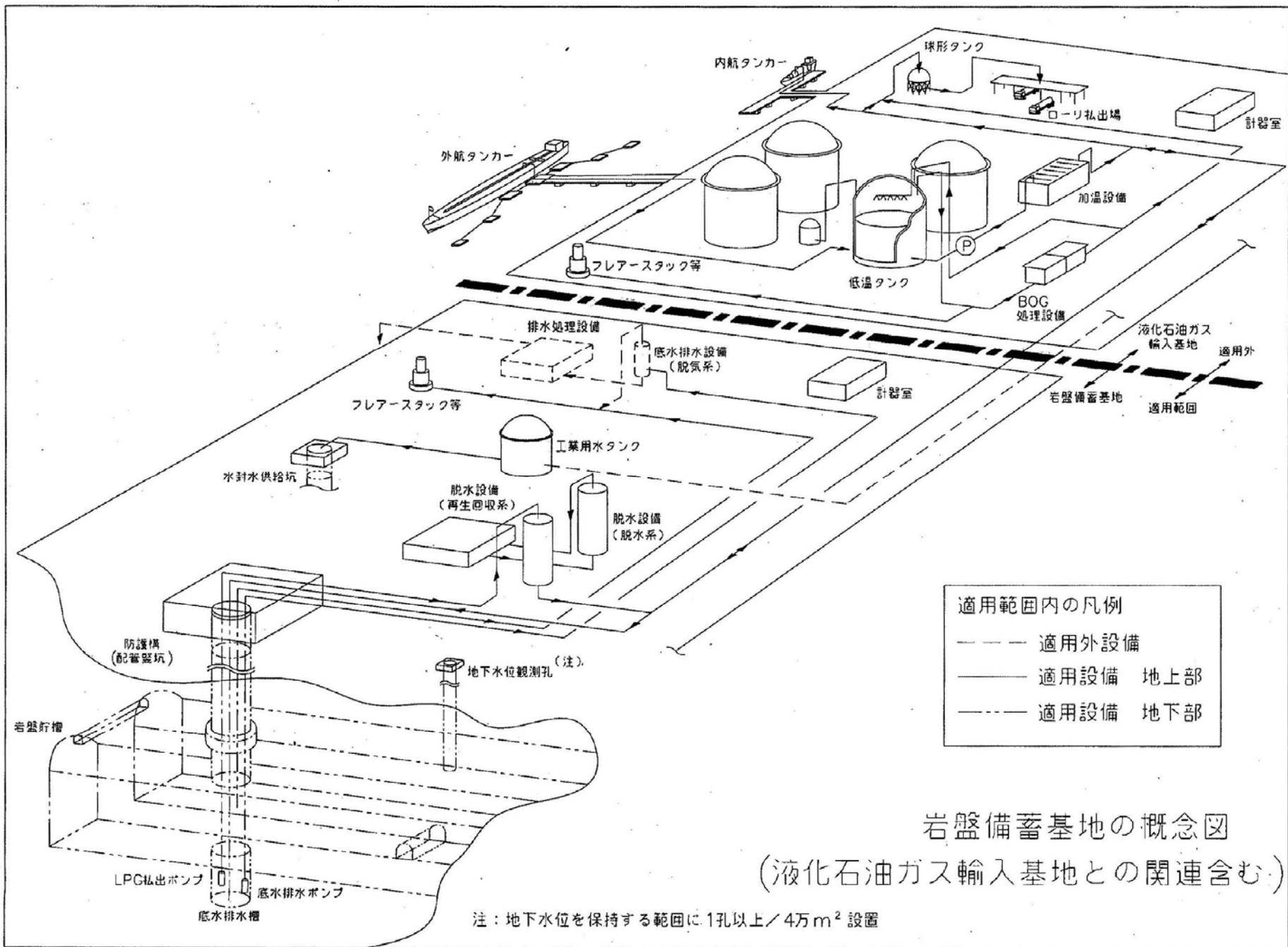
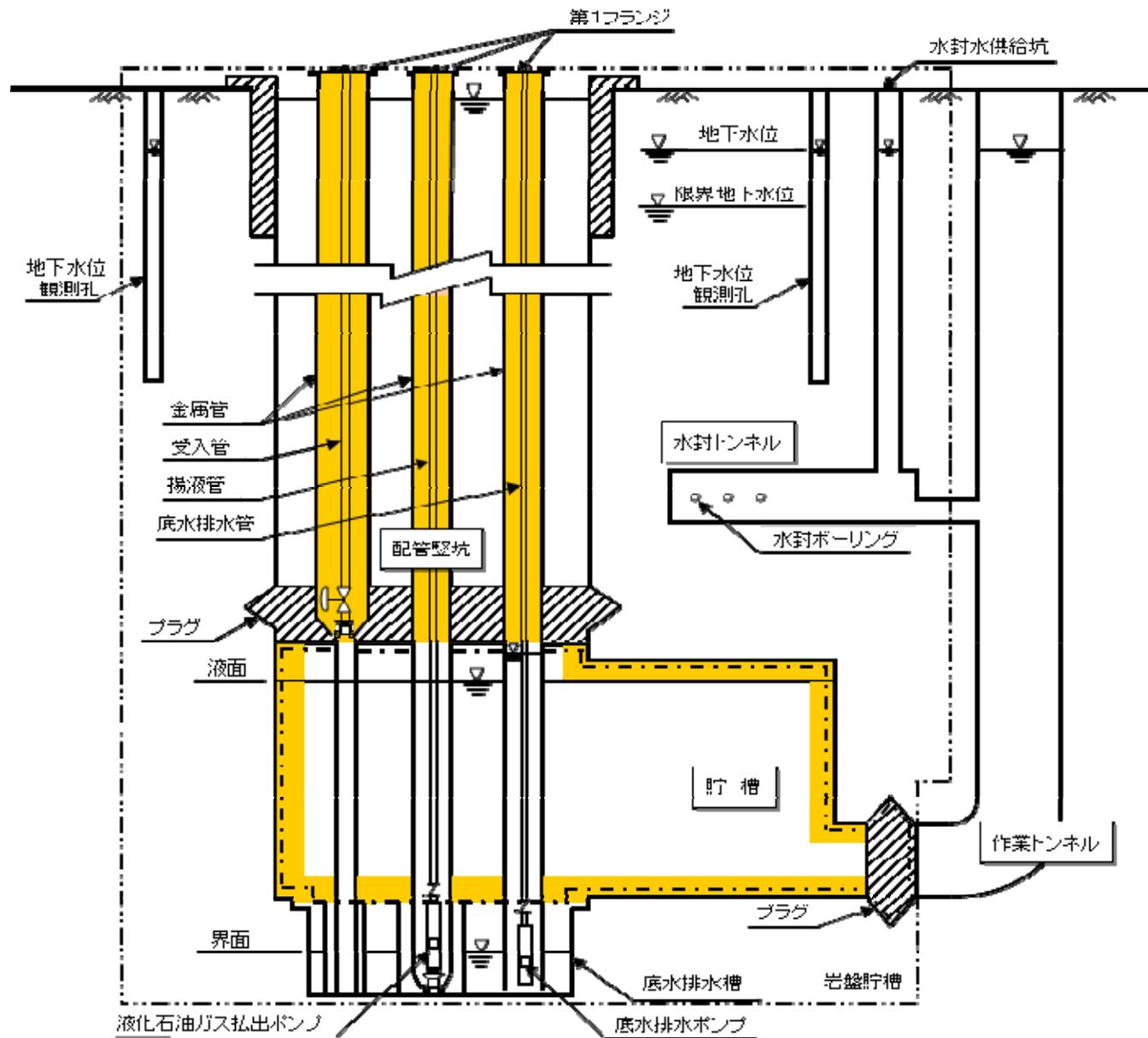


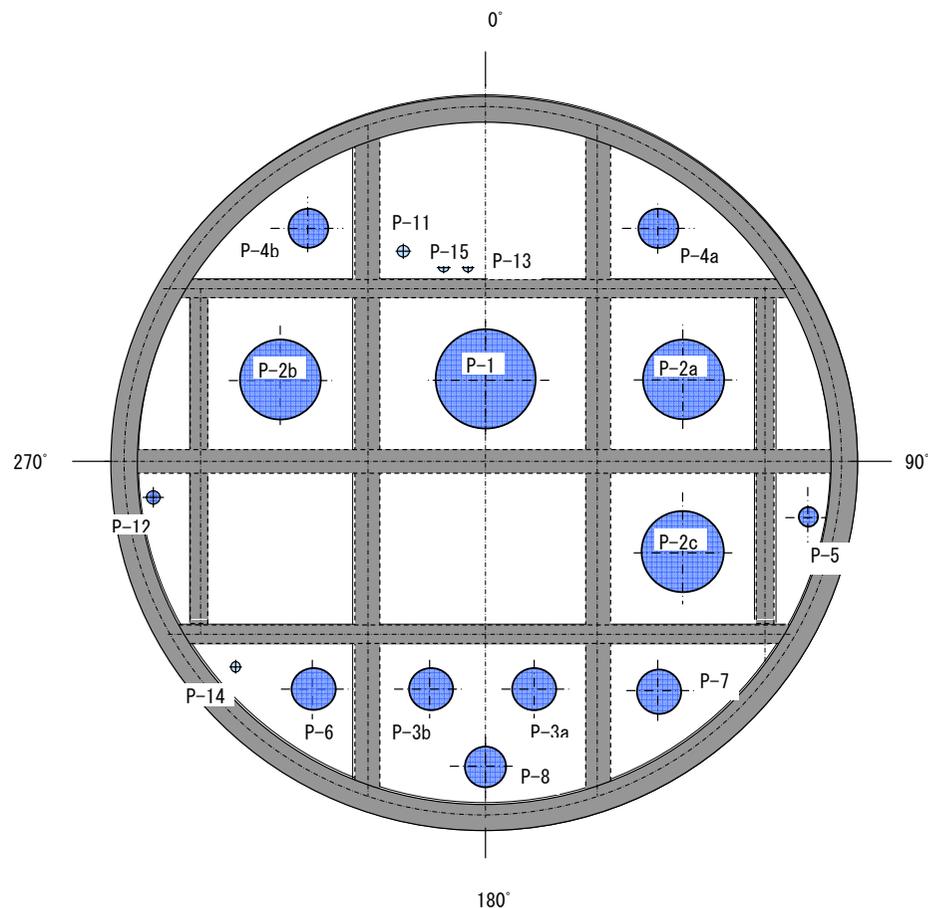
定期自主検査指針・保安検査基準

(液化石油ガス岩盤備蓄基地関係)について

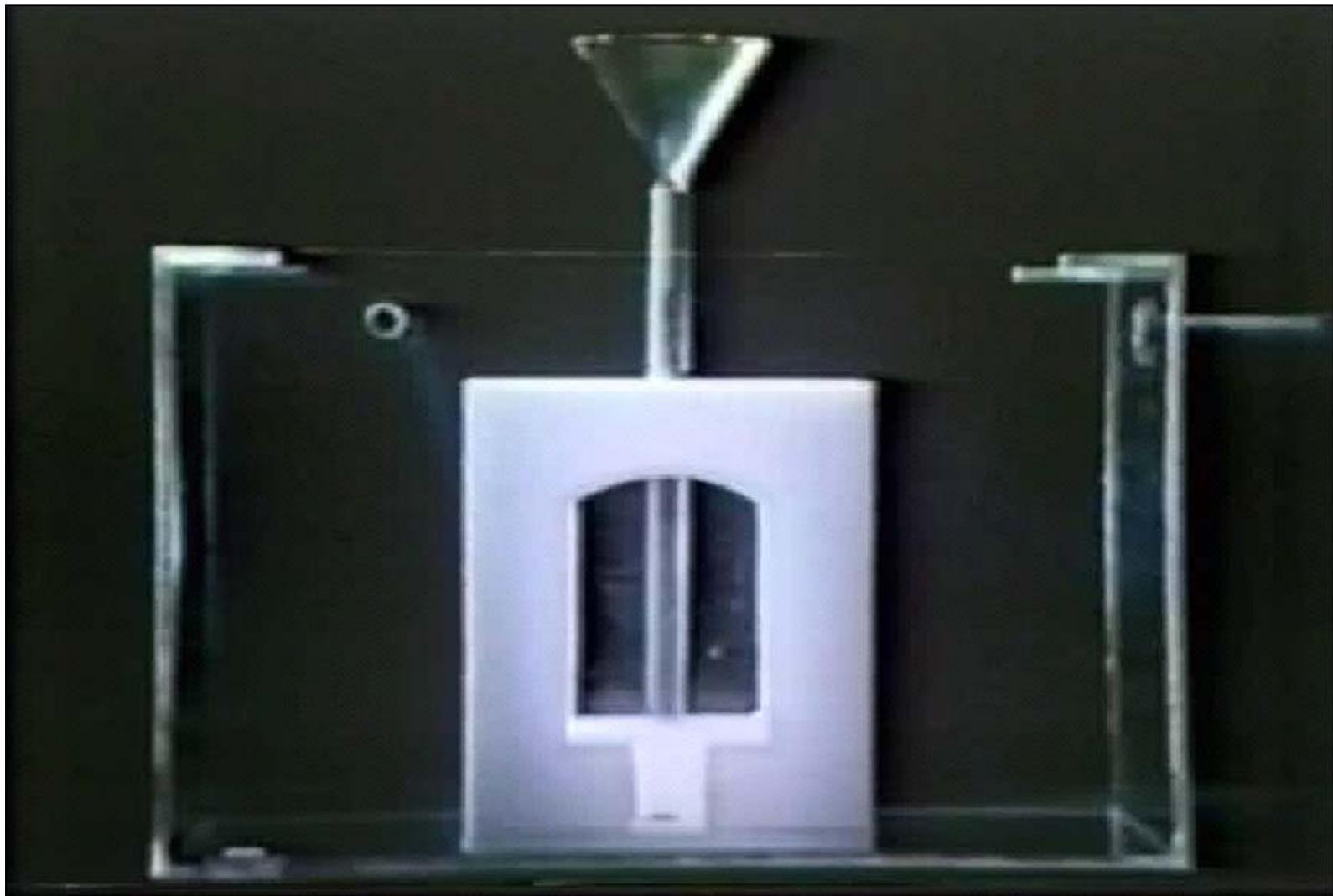




〈配管縦坑 金属管配置図〉



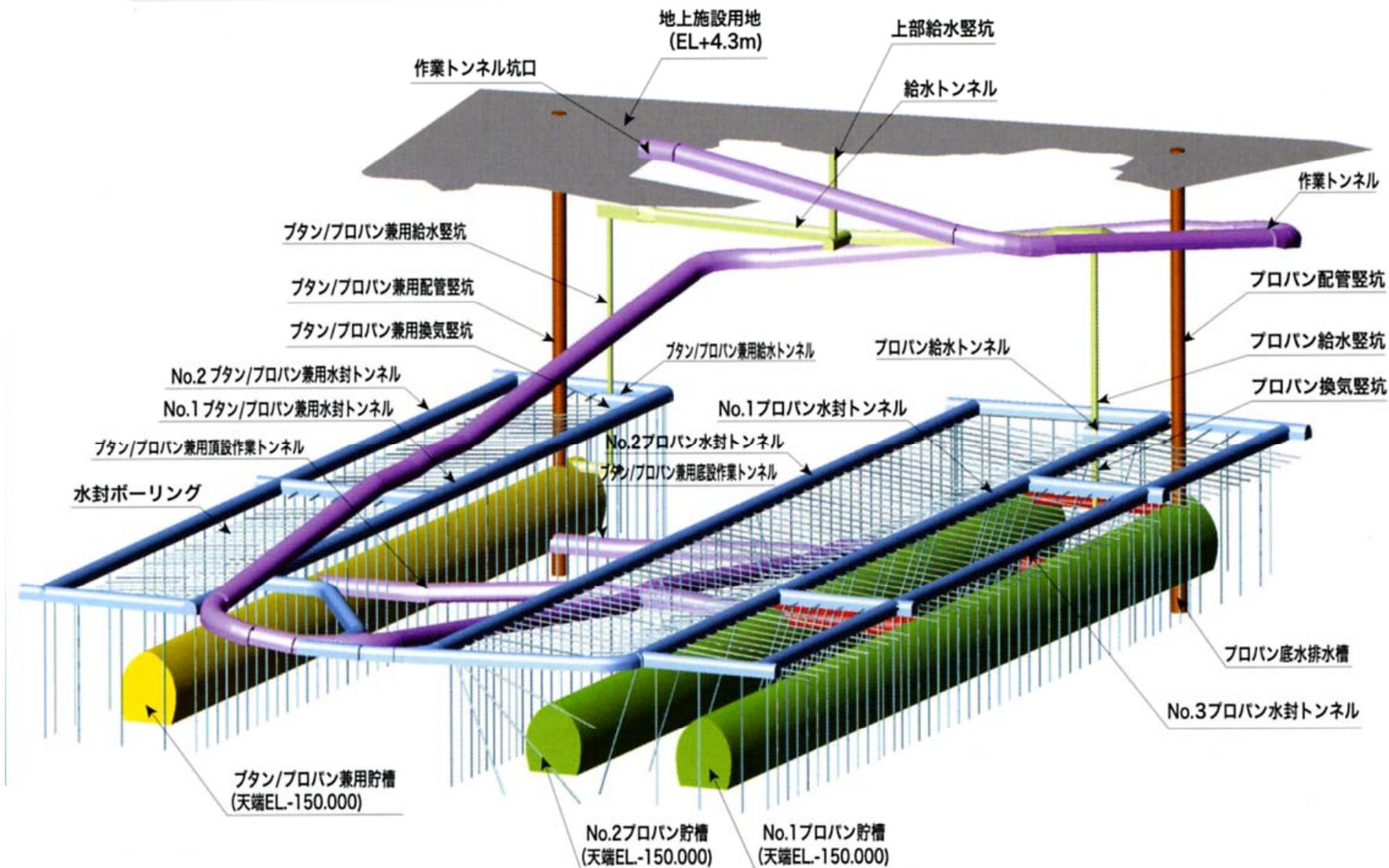
記号	サイズ	名称
P-1	32B/26B	LPG受入管保護管
P-2a	24B	LPG払出管保護管
P-2b	24B	LPG払出管保護管
P-2c	24B	LPG払出管保護管
P-3a	12B/8B	液面界面計測管
P-3b	12B/10B	液面界面計警報計測管
P-4a	16B	底水排水管保護管
P-4b	16B	底水排水管保護管
P-5	8B/6B	計測管
P-6	12B	ガス圧力計測管保護管
P-7	12B	ベント管保護管
P-8	12B	パージ管保護管
P-11	4B	水封水補給管
P-12	6B	水封水水位計管
P-13	2B	ガス検・水封水温度計管
P-14	2B	ガス検知管
P-15	2B	水封水水位計管

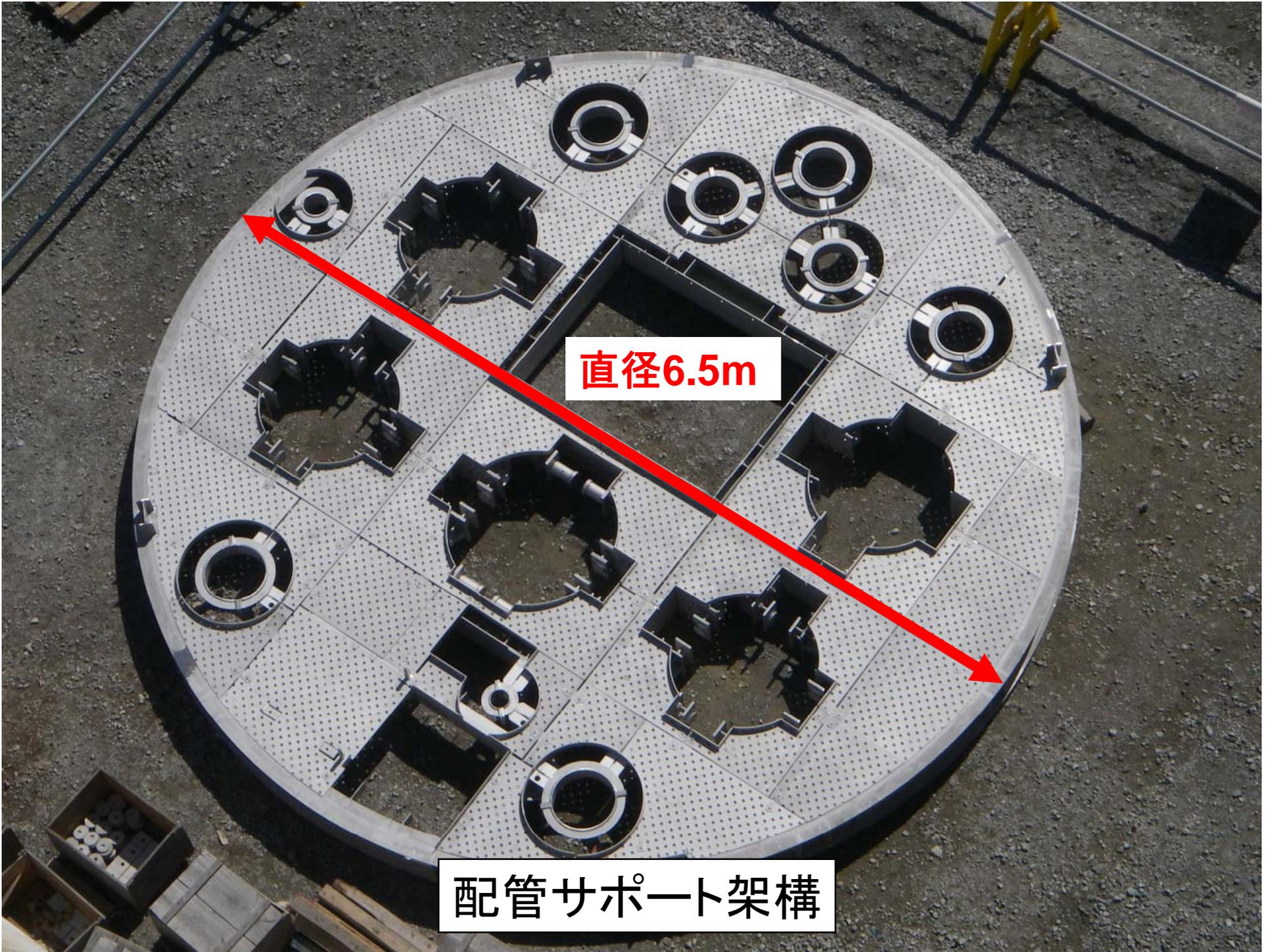


Default

波方基地全景



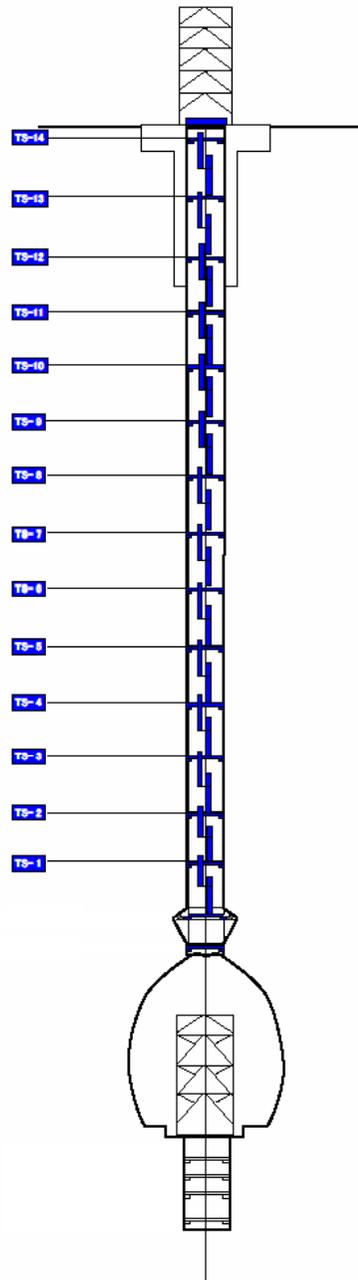




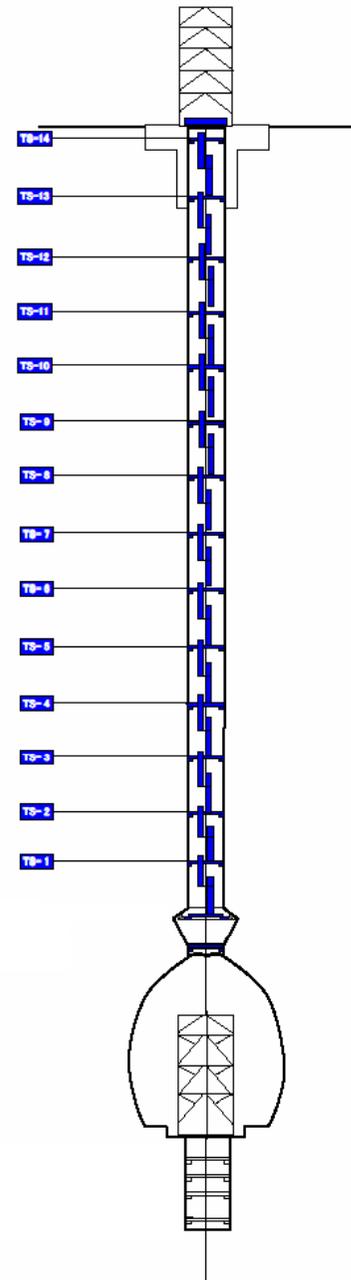
直径6.5m

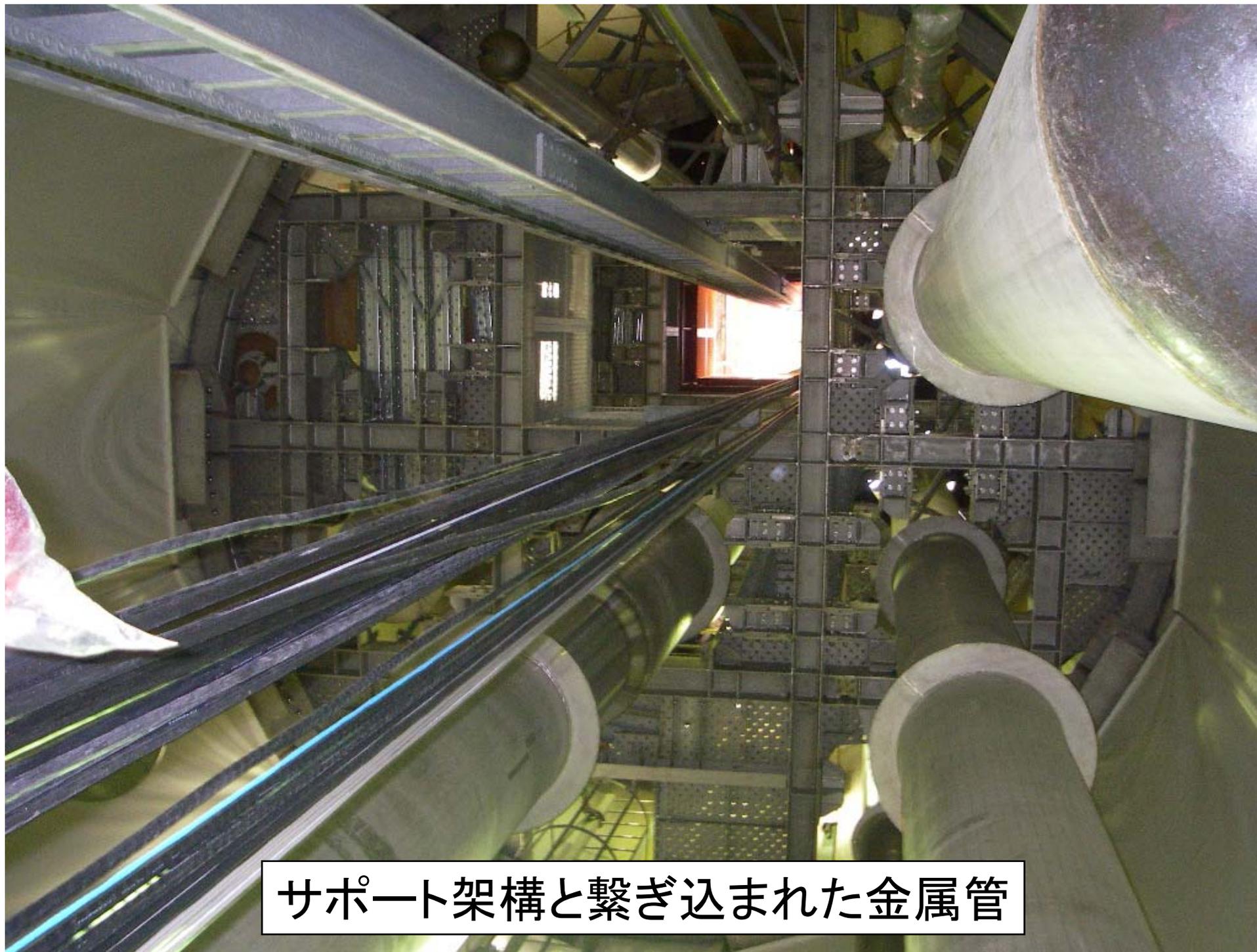
配管サポート架構

ブタン/プロパン兼用竪坑

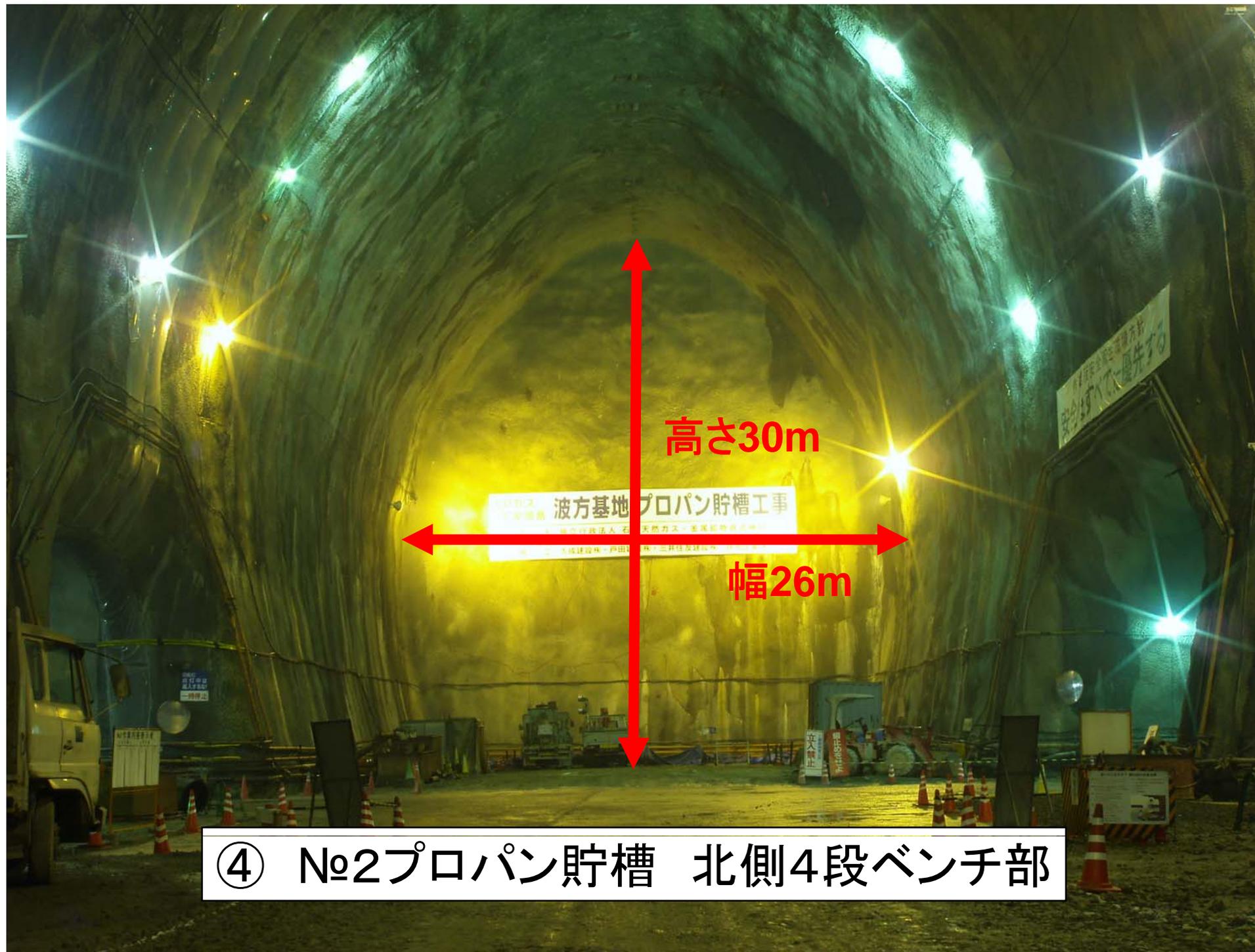


プロパン竪坑





サポート架構と繋ぎ込まれた金属管



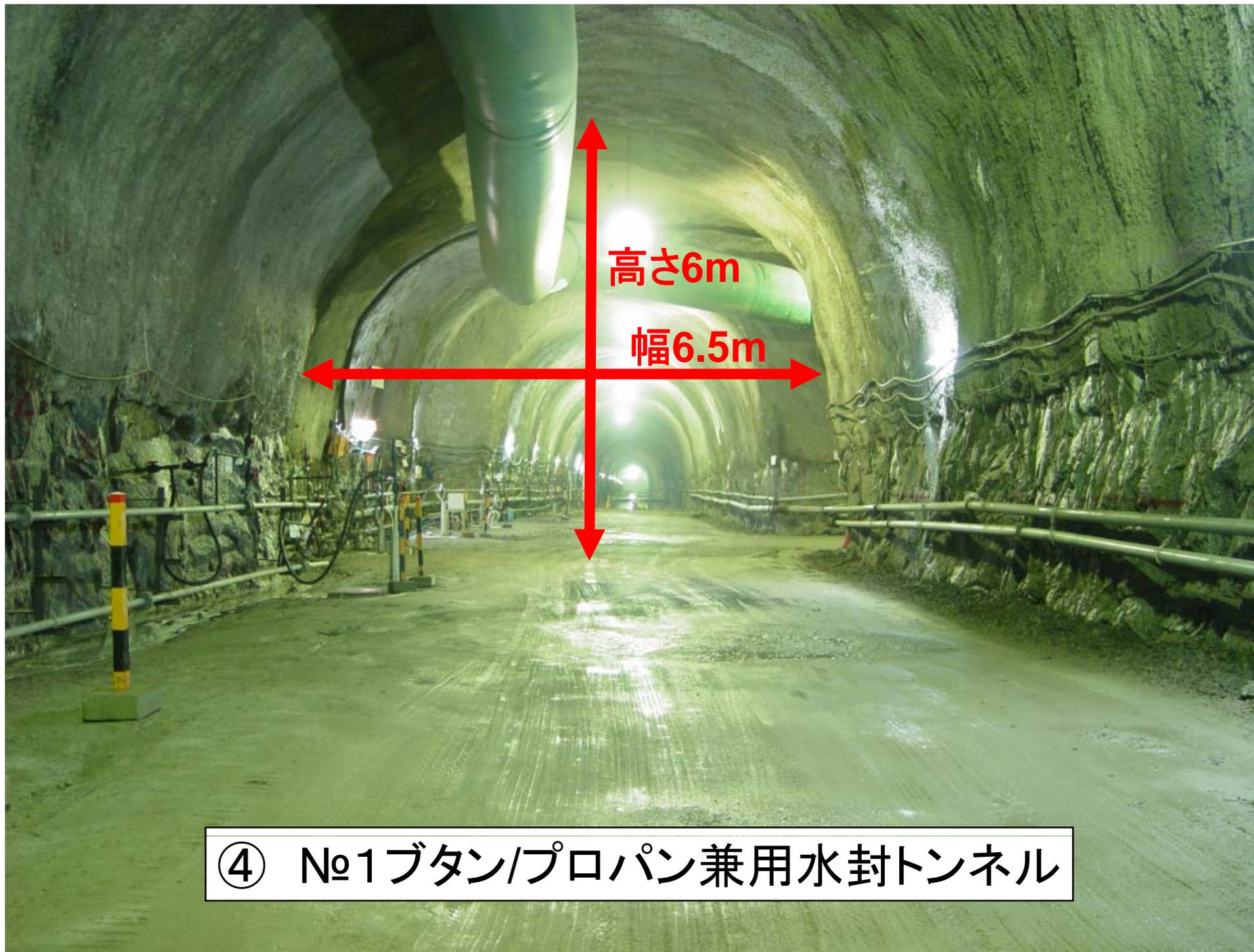
高さ30m

幅26m

波方基地プロパン貯槽工事

安全は第一優先する

④ No2プロパン貯槽 北側4段ベンチ部





⑤-2 №1プロパン貯槽配管豎坑貫通部

高圧ガス設備の耐圧性能及び強度における各設備の例を示すと以下のようになる。

	検査方法		
	目視	非破壊検査（肉厚測定）	肉厚測定以外の非破壊検査
金属管を除く貯槽 *1	— (水封機能で代替)	—	—
水面より上部の金属管外面	1年に1回以上 (KHKSと同じ)	1年に1回以上 (KHKSと同じ)	目視検査で異常が認められたとき。*2
水面より下部の金属管外面	10年に1回*3(ただし、坑水面より上の目視検査で異常が認められたときに実施する。また、堅坑内ガス検知器の作動、大規模地震の発生の場合には必要に応じて実施する。)	目視検査で異常が認められたとき	目視検査で異常が認められたとき。*2
金属管内面	10年に1回(ただし、内部機器のうち、点検・修理のため内部機器の一部しか引き上げない構造のものについては、内部から検査を行うことができない設備とする。)	内面の目視検査で減肉が認められたとき。 内部機器のうち、点検・修理のため一部しか引き上げない構造のものは、外部より10年に1回以上。	目視検査で異常が認められたとき。*2
LPG払出ポンプ *4	分解点検・整備のための開放時。 (KHKSと同じ)	分解点検・整備のための開放時に減肉が認められたとき。	分解点検・整備のための開放時。
内管*5	分解点検・整備のための開放時。	分解点検・整備のための開放時。	分解点検・整備のための開放時。
フェールセーフバルブ及び圧力制御弁	分解点検・整備のための開放時。 (KHKSと同じ)	分解点検・整備のための開放時に減肉が認められたとき。	分解点検・整備のための開放時。
地震防災遮断弁	外部は1年に1回。 内部は分解点検・整備のための開放時。 (KHKSと同じ)	分解点検・整備のための開放時に減肉が認められたとき。	配管系として、外部から適切な検査方法で実施。

- * 1 内部及び外部に減肉及び劣化損傷が発生するおそれのない高圧ガス設備とは、金属管を除く岩盤貯槽をいう。
- * 2 ただし、目視検査で異常が認められたときにグラインダー等で研削し、割れ・孔食等、進展状況等を測定し確認することにより非破壊検査に代えることができる。(J S M E S N A 1-2004 解説RB-2220-6)
- * 3 海外及び国内の原油地下備蓄の目視検査期間は10年に1回で異常が見つからないため、実績にあわせた。
- * 4 LPG払出ポンプ、内管、フェールセーフバルブ、圧力制御弁は、減肉及び劣化損傷が発生しても、直接貯蔵物が外部に漏れることはない。
- * 5 配管と同様に内部から検査を行うことができない設備として扱う。